

The Japan Association of Radiological Technologists  
ネットワーク・ノウ

# Network Now

2018 No.506

2 / 1

JART情報  
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会  
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1  
世界貿易センタービル31階  
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



## 平成29年度 第8回理事会開催される



平成29年12月16日（土）に、本会事務所で平成29年度第8回理事会が開催された。出席者数は23人であり、本理事会は成立した。

理事会に先駆けて、岐阜大学工学部 藤田広志教授の人工知能（以下、AI）についての特別講演があった。従来のAI技術を発展させたディープラーニングにより、画像の認識は人間と同等もしくは超えた可能性があるとのことであった。

本理事会では、初めに中澤会長より3つの話があった。1つ目は、平成29年の事業を振り返り、創立70周年記念式典、本年度のワークショップ内容および北海道で開催された診療放射線技師学術大会について言及された。2つ目は、柔道整復師法のエックス線撮影に絡む改正案に対する反対表明決議について。3つ目は、AI技術に対する今後の診療放射線技師業務についてであった。AI技術については、都道府県（診療）放射線技師会の学術大会の講演やシンポジウムなどで内容を取り上げ、知識の構築をしていただきたいとのことであった。

主な議題は「平成30年度事業計画総括案について」「平成30年度47都道府県地区責任者（会長）会議・研修会企画案について」「諸規定見直し案について」および「教育奨励金貸与申請者について」。報告事項は「執行理事報告」「中間監査報告」「新生涯教育委員会報告」「調査委員会報告」「医療安全対策委員会報告」「災害対策委員会報告」「第33回函館学術大会の報告について」「第34回下関学術大会について」「分科会関係報告」および「日本放射線治療専門放射線技師認定機構からの次年度委員派遣依頼」であった。

議題の「平成30年度事業計画総括案について」では、中澤会長から平成30年度の事業計画の15の柱の説明があり、次回理事会への継続審議となった。「諸規定見直し案について」では、熊代副会長から放射線取扱主任者定期講習業務規程、中村理事から分科会設置および運用に関する規程、児玉

理事から日本診療放射線技師学術大会運営規程の説明があり、それぞれの規定の見直し案は承認された。

報告事項の「中間監査報告」では、江田理事から報告があった。中間監査の監事総評で、入会促進に向けた活動をさらに進めることとなった。「新生涯教育委員会報告」では、中村理事からマネジメントリーダーの進捗報告があった。「医療安全対策委員会報告」では、山本理事から感染予防マニュアルおよびI/Aレポートシステムについての報告があった。「災害対策委員会報告」では、北川理事から中国電力島根原発の事故に備えた原子力防災訓練の実施報告があり、自衛隊や県警なども含めおよそ4千人が参加したということであった。「第33回函館学術大会の報告について」では、板東理事から大会参加者数および収支決算などの報告があった。「第34回下関学術大会について」では、山内大会長から、現在の進捗報告および第33回診療放射線技師学術大会（北海道）の第34回診療放射線技師学術大会（山口県）ブースで行われたアンケート調査の集計結果の報告があった。

最後に、今後のスケジュールを確認し、本理事会は無事終了した。

詳細な内容は、平成29年度第8回理事会議事録（抄）を参照されたい。



## 平成29年度 診療放射線技師養成機関・ 職域団体との懇談会 開催される

平成29年11月25日(土)午後2時から、本会事務所で平成29年度診療放射線技師養成機関・職域団体との懇談会が開催された。今回、参加いただいた養成機関は国公立大学7校、私立大学17校、専門学校10校および職域団体からは6団体の総勢50人の方々にご出席いただいた。本会からは中澤靖夫会長、佐野幹夫副会長、熊代正行副会長、小田正記理事、江田哲男理事、中村勝理事、児玉直樹理事が出席した。

懇談会は江田理事の司会で始まり、中澤会長のあいさつに続いて、現在、本会が取り組んでいる事業展開について報告された。主に統一講習会の進捗状況と今後の予定について述べられ、技師法改正についての取り組みや、6月に提出した診療報酬改定要望書の説明をされた。また本年度の新しい事業として、12月に災害対策支援診療放射線技師制度の研修会を実施することとその内容について説明がされた。

続いて会場から、柔道整復師法の一部改正案の内容にかなり問題があるとの意見が出され、中澤会長からこの法律案は多くの問題があるため、国会には提出されているが審議には至っていないとの説明がされた。また今後も柔道整復師については、その動向について注意していかなければならないこ

とが述べられた。

将来の診療放射線技師教育については、中澤会長から質の高い医療技術を提供するために六年制教育が必要であることを述べられ、専門学校については三年制から四年制教育の実現に向けて協力依頼をされた。

職域団体からは、大学病院のように大きな施設では分業制で業務を行っているため、関与しない業務の講習は受講しない人もいるなどの意見が出された。また診療報酬に関係するチーム医療の中で、診療放射線技師の割合が一番少ない状況であり、撮影業務だけではチーム医療として貢献が非常に難しい状況との意見もあった。

会場からは、将来を見据えてチーム医療へ貢献できる業務拡大の活動をJARTへ希望するなどの意見が出された。

最後に、熊代副会長より、JARTが実施しているアンケート調査データが技師法改正につながる大きな武器になることや、統一講習会受講の必要性について述べられ、本会主催の懇談会にご出席いただいた諸先生の方々へ感謝のあいさつが行われて閉会した。

## 国際専門放射線技師認定機構 (IABSRT) 理事会 開催される

2017年12月8日(金)～10日(日)に、台湾花蓮(Hualien)県の慈濟科技大學(Tzu Chi University of Science and Technology)で開催された国際専門放射線技師認定機構(IABSRT)理事会に、熊代副会長、小田理事、児玉理事の3人が出席した。国際専門放射線技師認定機構は、8月第4週の日曜日に開催される国際認定試験の実施概要および試験問題作成などの決定を行い、年に1度、12月に理事会を開催している。

今回の理事会では、2018年度の国際認定試験の日程および試験作問責任国などが決定された。国際認定試験は2018年8月26日(日)に実施されることが決定し、日本は昨年度と同様にCT・NM・USの3科目について試験作問責任国となった。また理事長の交代も行われ、来年度からはタイ診療放射線技師会のSala Ubolchai会長が理事長に就任されることになった。なお理事長は1期2年であり、日本・韓国・台湾・タイの4カ国の持ち回り制となっている。



日本・韓国・台湾・タイの代表者



国際専門放射線技師認定機構 (IABSRT) 理事会



慈濟科技大學 (Tzu Chi University of Science and Technology) で記念撮影



## 4th South East Asia Radiographers & Radiological Technologists Conference開催される

2017年11月11日(土)・12日(日)、ミャンマー・ヤンゴンのChatrium Hotel Royal Lakeで、4th South East Asia Radiographers & Radiological Technologists Conferenceが開催された。今回の学術大会は、南アジアおよび東アジアの10カ国を中心に開催され約350人が参加し、日本からは中澤会長、高木理事をはじめ11人が参加した。日本からは、CTの物理特性(MTF)やCaスコアリングの検討などの演題発表が行われた。ミャンマー放射線技師会は会員数350人ほどの組織であり、South East Asia Radiographers & Radiological Technologists Conferenceを開催することで多くの外国人が参加し、賑わいを見せていた。日本と同様にミャンマーにおいても「女性も働く時代」であり、本学会を支えていたスタッフの9割は女性のRadiographersであった。

ミャンマー国内には2つの大学があり、毎年50人(合計100人)のRadiographersを輩出している。今後は、国の経済発展とともにより大きな組織になっていく状況である。ま

たミャンマーには診療放射線技師のライセンス制度がないため、今後は国家資格制度の確立に向けて動き出しているとのことであった。



記念撮影(オープニングセレモニー)



ミャンマー会長との記念品交換

## 第1回放射線管理士講習会開催報告

平成29年11月26日(日)に、本会講義室で第1回放射線管理士講習会が開催され、全国から44人の参加があった。

今回、e-ラーニングの更新を機に講習会の内容を検討したが、サーベイ実習や関連講義を含めると2日間必要になる。検討の結果、今回は講義のみを行い、水晶体被ばくに関する講義を入れることで内容を決定した。初めに分科会長のあいさつがあり、午前中は講師に諸澄氏・佐藤氏・狩野氏をお迎えし、被ばく関連の講義を行った。各講師にはコンテンツの講義内容を基に、最近の話題を含めた内容に加え、放射線管理士への期待・要望もお話しいただいた。その中で、認定制度が始まった当初はML(メーリングリスト)があり、認定者の多くは登録を行ったが、現在、全員対象のMLは整備されておらず、現状での連絡方法は各都道府県の委員を通して行われている。しかし、各委員から先の連絡網が万全でないため、災害時の連絡網との関連もあり、両者合わせて早急な対応をお願いしたいと話された。午後からは放射線災害・被災者の心理・被ばく相談・原子力施設関連についての講義が行われた。

今回、参加者からはおおむね良い評価を頂いた。今後の課題としては、各講義の内容を絞り、質問や総合討論の時間を設けることなどが挙げられた。今後、講義内容も検討し、次年度も引き続き開催する予定である。

最後に、開催に向けご協力いただいた講師・関係者の皆さまに感謝申し上げます。

(放射線管理士分科会 南保 修)



## 第3回 被ばく線量適正化講習会 開催報告

平成29年11月5日(日)に、香川県県民ホール(レクザムホール)で標記講習会が開催された。当日は3連休の最終日にもかかわらず、39人のご参加を頂いた。本講習会は、診断参考レベルの普及と医療被ばく低減施設認定の取得を目的に昨年度から開催しており、本年度は3回目(通算6回目)となる。講義内容は、初めに医療被ばく安全管理委員会 鈴木委員長より「DRLの概要について」と題して、DRLに関する説明に加え、世界的な医療被ばく低減への取り組みが紹介された。続いて「医療被ばく低減に向けた診療放射線技師の活動について」と題して、香川大学医学部附属病院 笹川泰弘氏にご講演いただき、線量評価の必要性や説明時の注意点に関して、経緯や事例を交えて詳細に解説していただいた。特別講演では、ルイ・パストゥール医学研究センター 宇野賀津子先生に「低線量放射線の影響と食の重要性 ～福島にみるクライシスコミュニケーション～」のご講演を頂いた。福島第一原発事故時には何度も現地入りされており、その際のご経験をクライシスコミュニケーションの視点からご紹介いただい



た。平常時と緊急時でのリスク管理の違いやリスクの評価など、疫学のお立場から分かりやすく解説された。最後の総合討論では、臨床現場で線量評価を行う問題点や課題、DRLの捉え方など有意義な議論ができたと考える。

開催に当たり、ご支援いただいた香川県診療放射線技師会の濱田会長をはじめ、役員の方々に厚くお礼申し上げます。

(医療被ばく安全管理委員会 鈴木賢昭)

## 平成29年度 第2回 実践医療被ばく線量評価セミナー 開催報告

平成29年11月12日(日)、本会事務所講義室で標記セミナーが開催された。本セミナーは、線量推計ソフトを実際に用いての実習型講習会であるが、受講者の多くが本会の事業である医療被ばく低減施設認定の取得を目的としている。実習をサポートするインストラクターは、認定施設に従事する方々や認定審査を行うサーベイヤーの方々にお願いし、施設認定取得に関するご質問にも対応している。受講者からは「評価値をどのように取りまとめればいいのか」「線量評価ソフトの購入は必須か」「評価値を臨床業務に反映させる方法



など、実務的なご質問に対しアドバイスが行われていた。施設認定取得に際しての経験談や情報交換が気軽に行えることも本セミナーの特徴であると考えます。

一般撮影系(透視検査含む)では、推計ソフトであるPCXMCの操作方法や推計時の注意事項に始まり、推計結果が表す意味などの解説が行われた。CTではImPACTに加え、本年度からはWAZA-ARiv2の開発に関わっておられる国立研究開発法人放射線医学総合研究所 古場先生をお招きし、登録方法や使用の際の注意事項など詳細なご説明を頂いた。特筆すべきは、ユーザーモデル機能が実装されたことが本講習会でお披露目となった。これは、ソフトに実装されていない装置であっても計算可能となるサービスである。すでに50種以上の装置が実装されているWAZA-ARiv2であるが、事実上、全ての装置に対して対応可能となった。また今後も装置は増やしていただけるとのことである。WAZA-ARiv2は操作性も良くフリーソフトであるため、臨床で活用されることを期待する。

(医療被ばく安全管理委員会 鈴木賢昭)



## 第13回 読影セミナー開催される

平成29年11月19日(日)午前10時より、大阪府・りんくう総合医療センター教育研修棟3階大会議室において第13回読影セミナーが開催された。企画内容は、腹部領域の診療と読影の補助とし、参加登録者87人と多くのご参加を頂いた。本セミナーには関西地方を中心とした会員の参加があり、関心の高さが感じられた。

読影分科会 坂下副会長による開会のあいさつから始まり、午前の部は救急医の講師陣から、堺市立総合医療センター 白井章浩氏より「腹部炎症性疾患の診断と治療」、大阪市立大学医学部附属病院 救命救急センター 晋山直樹氏より「腸管閉塞性疾患の診断と治療」の2講演が行われた。実際の臨床現場で活躍されている専門医による、さまざまな症例や疾患の臨床画像を用いて読影の解説などが行われた。また専門医が常時対応している施設がまれな現状や、非専門医が急性腹症診療に対応せざるを得ない実状などを含め、臨床医の意図に合致し、過不足なく分かりやすい画像の提供に、診療放射線技師の果たす役割が今後ますます大きくなるとの話があった。休憩を挟み、午後の部では同センター 羽川直宏氏

より「腹部動静脈閉塞性疾患の診断と治療」、同センター 新川寛二氏より「腹部結石の診断と治療」、そして診療放射線技師の講師陣からは、兵庫県立姫路循環器病センター 前田啓明氏より「急性腹症のCT撮影と画像再構成」、りんくう総合医療センター 坂下恵治氏より「急性腹症の一般撮影と重要所見」の4講演が行われた。救急医師からは、実際の現場で必要な読影のコツに関する5W、疾病の知識や解剖学、そして病態を理解することが診断の一助になるとの話があった。診療放射線技師からは、適切な画像再構成や表示法やコツ、撮影の基本や読影の補助についての話があった。臨床現場で活躍される先生方の有意義な講演でセミナーは盛況となり、坂下副会長のあいさつで閉会となった。

読影分科会の活動として、年3回の読影セミナーの開催(東京・大阪・愛知)が予定されている。読影の補助に関して、皆さまのご理解と読影補助に関わる熱意が増していることが会場でも感じられ、今後も画像診断における読影の補助の発展に寄与できるよう、引き続き分科会活動を行う。

(文責：日本診療放射線技師会 読影分科会委員  
北里大学東病院 安富蔵人)



## 本会への入会手続きについて(お知らせ)

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- 1 本会ホームページ (<http://www.jart.jp>) から「新規入会はこちらから」をクリック
- 2 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL : 03-5405-3612 E-mail : [info@jart.or.jp](mailto:info@jart.or.jp)

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。



INFORMATION



# 第12回 九州放射線医療技術学術大会 報告記

公益社団法人日本診療放射線技師会  
九州地域理事 江藤 芳浩

平成29年11月18日(土)・19日(日)、鹿児島市の宝山ホールにおいて、大会テーマ「放射線技術学の粋を集めて～社会に役立てるために～」と題して、西郷康正大会長、太田原美郎実行委員長の下、第12回九州放射線医療技術学術大会が開催された。

本大会は(公社)日本診療放射線技師会、九州地域放射線技師会、(公社)日本放射線技術学会の合同開催であり、九州8県が持ち回りで開催されている。12回目となる本大会は、発表演題数199演題、参加総数839人と盛大に開催された。

特別講演には、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科放射線診断治療学分野教授 吉浦 敬先生に「診療放射線技師の大学院教育はなぜ必要か」と題してご講演いただいた。またシンポジウムでは、テーマを「放射線技術学における研究成果を社会に役立てるために～臨床経験を活かして～」と掲げ、基調講演に熊本大学大学院生命科学研究部教授 白石順二先生による「放射線技術学を社会に役立てるために、今、われわれが成すべきこと」のご講演を頂き、続いて4人の演者から「身近なテーマで研究を始めるために必要なこと」「学会で研究発表をするために必要なこと」「初めて論文を書くときに必要なこと」「学位取得が更に活かされるために」の講演が行われた。本大会を通じ、診療放射線技師の研究活動がますます盛んになり、臨床に生かされる機会となることを期待する。

その他、市民公開講座では、基調講演にメディポリス国際陽子線治療センターの放射線治療専門医である有村健先生に「ここまで来たがん治療～粒子線治療、高エネルギーX線治療の最前線～」と題した講演が行われ、多数の市民にご来場いただいた。さらに実行委員企画から2企画、ランチョンセミナーは4つと多彩な企画が実施され、いずれも盛況であった。

恒例の大会情報交換会は、大会初日に城山観光ホテルのロイヤルガーデンで開催され、参加者数231人と大変盛況であった。鹿児島県の食とお酒、さらに九州各県か



開会式 (中澤会長あいさつ)



第1会場発表風景



第2会場風景



第3会場風景



市民公開講座

ら寄贈された焼酎に舌鼓を打ちながら、会員相互の交流と親睦を深めていただく良い機会となった。

最後に、大会準備から開催に至るまでご尽力いただいた鹿児島県の実行委員をはじめ、全ての皆さまに心より感謝申し上げる次第である。

次回、第13回九州放射線医療技術学術大会は平成30年11月10日(土)・11日(日)、那覇市・沖縄県男女共同参画センター『ていりる』・パシフィックホテル沖縄で、大会テーマ「放射線技術の安心・安全な継承～被ばくについて考える～」を掲げ、青山信和大会長、長野篤実行委員長の下、開催する予定である。



# 第25回 中四国地域診療放射線技師 学術大会 報告記

公益社団法人日本診療放射線技師会  
中四国地域理事 北川 明宏

平成29年12月2日（土）・3日（日）の両日、徳島県徳島市あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）において、第25回日本診療放射線技師会中四国地域診療放射線技師学術大会が開催された。本大会は、日本放射線技術学会中国・四国支部との共同開催で、第13回中四国放射線医療技術フォーラムとしての開催となる。両会の最終目標は、国民に対してより良い医療を提供するための活動であり、医療の一分野である放射線技術を向上させることが重要であると考え、一つには放射線技術の最適化が必要であるとの思いがある。そのため今回のメインテーマには「それぞれの最適化を目指して」が掲げられている。“それぞれ”とは、放射線診療における検査・治療・被ばく線量の管理は当然のことながら、医療人としてのモラルなども含めたものであると聞いている。

シンポジウムでは「最適化」をキーワードに、CT・MRI・RI検査の第一線で活躍されている先生方に、どのような観点に基づき、放射線診療の最適化を目指されているかを具体的にお聞きすることができた。教育講演では、徳島大学大学院 医歯薬学研究部放射線医学分野教授 原田雅史先生に、われわれが提供した画像に対して読影する医師がどのようなプロセスで画像診断を行っているのかを興味深くお聞きすることができた。市民公開講座では、金星探索機「あかつき」に携わった、

JAXAあかつきプロジェクトリーダー 中村正人先生に『あかつきプロジェクト』がどのような目的で立ち上がり、どのようなことを想定してプロジェクトを進めてきたかなど、たくさんのエピソードや、今後の金星探索計画など最新のプロジェクトをお聞きすることができた。特別講演では、中澤会長による「日本診療放射線技師会の現状と課題」と題した講演が行われ、直近の問題である柔道整復師会からの法案提出の件を詳しく会員の末端まで分かるようにお話しいただいた。

JART企画として、中四国の女性活躍推進班CS9の皆さんが中心になって企画された講演では「アンガーマネジメント～怒りの感情やイライラに振り回されていませんか？～」という演題で、ヒーリングアトリエ創美館代表 内田美佐先生にご講演いただいた。自身の行動について一つ一つのことに身に覚えがあり、自分を見つめ直すことができたように感じた。参加者約100人が皆同じ思いであろう。

情報交換会も盛大に行われ、徳島といえば<sup>あわ</sup>阿波踊り。たくさんの会員がプロの踊り手の方と一緒に「踊るあほうに見るあほう、同じあほうなら踊らにゃそんそん」と踊っているのが印象的であった。

演題数140題、参加者数631人の本大会は盛会裏に終了し、次期開催県広島へとバトンタッチされた。



開会式の様子（中澤会長あいさつ）



市民公開講座

## 第2回 医療被ばく低減施設認定取得セミナー 開催報告

平成29年12月17日(日)、本年度2回目の開催となる医療被ばく低減施設認定取得セミナーが、AP大阪駅前梅田1丁目APホールIで開催された。本セミナーは、本会推進事業の一つである「医療被ばく低減施設認定事業」の認定取得を目指す施設に対し、具体的な対策などを説明し、受審施設が認定の準備を円滑に行えることを目的としている。前回、1回目のセミナーが同年10月に開催されたばかりにもかかわらず、北海道から九州まで全国各地より42人もの参加があった。セミナーの内容は、審査の際に審査項目となる第一領域「行為の正当化」と第二領域「放射線防護の最適化」について、それぞれ小・中項目まで細分化した項目の解説や、



サーベイヤーが訪問審査で注目する箇所の説明とその対処方法、および総合討論となっている。質疑応答は閉会時間まで行われた。また本セミナーには、講演を行った2人のチーフサーベイヤー以外にも他のサーベイヤーが複数参加しており、セミナー後の個別対応が行えるよう受講生とサーベイヤーが連絡先を交換する光景も多く見られた。

「医療被ばく」は「行為の正当化の判断」が行われてから生じるものであるが、近年、その線量把握や最適化の実施に注目が集まっている。「防護の最適化」については、最適化の実施を実施者以外が確認することは難しく、第三者機関による審査が有効であると考えられる。この医療被ばく低減施設認定事業は、X線検査に用いるX線量把握やその最適化と実施だけでなく、放射線検査の安全性をアピールする上で有効なツールになると思われる。

医療被ばく安全管理委員会では、今後も上記のようなセミナーを開催していく予定である。会員の皆さまがセミナーに参加していただくと幸いです。

(文責：医療被ばく安全管理委員会 佐藤寛之  
(聖マリアンナ医科大学病院))

### 本会の動き

### 会員情報システム委員会より

会員情報システム(JART Information System: JARTIS)は、会員・非会員を問わず利用できる情報システムで、本会主催の講習会や各種セミナーなどの生涯教育・イベントへの参加申し込みはもちろんのこと、e-ラーニングの利用、イベント参加費などの納入状況の確認が可能であり、本会への入会(再入会)・会費の免除・転入転出・勤務先の変更など、会員情報の申請や変更ができる情報システムであり、本会のホームページから無料で利用登録が可能なデータベースである。

委員会では、このJARTISの運用状況のチェック、新しい課

題に対応するためのシステム改修の検討、および改修作業の進捗状況の確認、本会事業遂行のための要件定義などを行い、運営会議・理事会に報告している。

現在、JARTISを新しい生涯教育システムや学術大会の受付システムとリンクすることが検討されている。本会と会員をつなぐパイプラインとして、より使いやすく、より便利なシステムを目指し、委員会および事務局が中心となり日々改修を進めているので、ユーザーとして会員皆さまの率直なご意見を賜りたいと願っている。

(文責：小田正記)

## JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。



## 第5回 第34回日本診療放射線技師学術大会 山口への道 下関ってこんなところ!

実行委員 小田真一郎

(山口県診療放射線技師会 会誌広報担当常任理事)

### 浪の下にも都の候ふぞ

本州と九州を結ぶ関門橋は、関門海峡でも最も狭く流れも速い、幅約650mの「早鞆<sup>はやと</sup>の瀬戸」という場所に架かっています。その両端には上下線別々にパーキングエリアが設置され、共に海峡の絶景を眺めることができます。上りは九州・門司側の「めかりPA」、そして下りは本州・下関側の「壇ノ浦PA」です。この壇ノ浦で“時代の潮流”が大きく変わったのは平安時代末期の1185年。前回までは幕末・維新に関する話でしたが、今回はさらに700年近くさかのぼった「壇ノ浦の合戦」の話です。

平清盛の死後、急速に力を失った平氏は、「鶉(ひよどり)越の逆落とし・敦盛の最期」の一ノ谷や、「那須与一」の屋島の合戦で連敗し、下関の彦島を最終拠点として壇ノ浦の戦いに臨みました。「源平の戦い」と聞けば、善玉の源氏が義経の活躍で悪玉の平氏を滅ぼした…というのが一般的な印象でしょうか？確かに、清盛による福原遷都や都の焼き打ち、さらに「此の一門に非ざれば人に非ず(時忠)」といった“奢れる平氏”のイメージは強烈ですが、「平氏=悪」は一考の余地があります。古今東西、革命的な政権交代が起きた際、新政権はその正当性を主張するために「前政権=悪」であったと宣伝します。しかも歴史は後世に書かれますから、清盛のように自らの歴史を記録するはずの後世が早々に滅びてしまうと、源頼朝や徳川家康のような政権樹立の立役者として歴史に残れず、“悪”の面だけが強調されてしまいます(秦の始皇帝なども同様)。

そんな平氏政権の終息の場となった「壇ノ浦の合戦」は、現在の定説では西向きに攻める源氏に対し、早鞆の瀬戸の東向きの流れに乗った平氏が初めは有利に戦ったものの、潮流が反転すると逆に源氏有利となり、「八艘飛び」の義経の活躍もあって、ついに平氏軍が壊滅した…とされています。この時、関門海峡の潮流の変化は、貴族の世からその後700年余り続く武士の世への、まさに「時代の潮流」の転換点となったわけです。

源平合戦の中でも最大の悲劇は、安徳天皇の入水でしょう。平氏を皇族にして権力を拡大させ、さらなる繁栄を図った清盛は、娘の徳子(建礼門院)を高倉天皇に嫁がせ、生まれた孫を安徳天皇として即位させました。ところが、わずか5年後に平氏は衰退し、壇ノ浦でもいよいよ勝ち目がなくなると、御座船に乗る二位尼(平時子:清盛の正室で徳子の母)は入水の覚悟を決め、安徳天皇を抱きかかえます。その時、安徳天皇に行く先を問われ、「運が尽きたので、極楽浄土にお連れします」と答えたところ、聡明な安徳天皇は、東に伊勢神宮を遙拝、続けて西方に念仏を唱えます。そこで二位尼は「浪の下にも都の候ふぞ」(候ふ:さぶらふ=「ある」の尊敬語)と慰め、三種の神器と共に壇ノ浦の急流に身を投げました。この時、安徳天皇は満6歳4カ月、歴代最年少の御崩御です。



安徳天皇

その後、阿弥陀寺(現赤間神宮)境内に御影堂が建立され、安徳帝の冥福を祈る「先帝会(祭)」は、現在まで800年以上にわたり営まれています。祭り最大の見せ場は、江戸時代、遊郭の遊女によって受け継がれたという「上臈(じょうろう)道中」ですが、本来は、道中の中ほどに位置する、十二単に正装し容姿を整えて参拝した平氏の女官たちが主役です。

この赤間神宮は、壇ノ浦で身投げしたものの生き残った建礼門院が、安徳天皇や二位尼が竜宮城にいる夢を見たことにちなみ、竜宮城を模した“竜宮造り”になっています。また壇ノ浦で亡くなった平氏一門の墓「七盛塚」や合戦の資料、物語『耳なし芳一』の舞台であることに由来した「芳一堂」もあります。そして近くの「みもすそ川公園」からは壇ノ浦古戦場が一望できますので、ぜひ合わせてお訪ねください。最後に、二位尼の辞世の歌を…

『今ぞ知る 身もすそ川の 御ながれ 波の下にも みやこありとは』

\*なにぶん800年も前の話なので、異論・諸説も多く、特に、潮流変化で有利不利が転じた…というのは、実は大正時代の説で、早鞆の瀬戸より東側の、広く、流速が遅い海域の海戦に潮流は関係なかったという説もあります。また壇ノ浦の「ノ」の字は、施設や場所により、之・の・ノが使用されていますので、この稿でも表記が混在しています。ご了承ください。



赤間神宮 水天門



## 五感から得られるもの



五感とは『三省堂 大辞林』によると「目・耳・舌・鼻・皮膚を通して生じる五つの感覚。視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚。また人間の感覚の総称としてもいう」とある。私は「五感」という言葉を聞くと、どうしても社会人2年目の朝を思い出す。

仕事にも慣れ始めた2年目の朝だった。薄暗い撮影室を通り掛かると、赤色のイヤホンを着けた先輩が始業点検を行っていた。先輩いわく「始業点検をしながら、英会話を聞いている」とのこと。その時、技師長がやって来た。技師長はその先輩を見るなり技師長室に連れていき、数分後、イヤホンを外した先輩が出てきた。そして技師長は私にもこう語り掛けた。

「高木君、先輩を見て違和感はなかったか？ 分かっていると思うが、始業点検は単純な“作業”じゃない。撮影室へ入ったときに視覚的に違和感はなかったか？ いつもと同じ体感温度だったか？ 変な臭いはなかったか？ スイッチを押したときに管球から変な音はなかったか？ 寝台を触ってザラツキはなかったか？ つまり五感をふさいだ状態で仕事はできない。マニュアルやエビデンスに沿って仕事をするのは大事だ。しかし、五感から得られるものを取り入れて仕事をしなければ一人前にはなれない」

私はこの日以来「五感から得られるもの」を大事にしている。

そして五感から得られた「結果」を多くの場面に活用している。家庭で得た教訓を仕事にも生かすし、仕事で得たことを遊びにも生かす。もちろん子育てにも生かしている。そのおかげでさまざまな点が線になり、複数の線が面になり、面同士がくっついていく。決して感覚だけで生活はしていないが、感じるものを非常に大事にしている。今後、もしかしたら五感よりも優れた感覚を持つロボットが開発されるかもしれない。しかし、FacebookのCEO マーク・ザッカーバーグ氏によると「幸いにも現状のところ、感覚から得た答えを基に新しいアイデアを生み出すことや、全く違うことに応用することは人間にしかできない」とのことである。やはり「五感から得られるもの」はとても大事なのだ。

私は当時の技師長から多くのことを学び(良いところも悪いところも)、今の技師生活へとつなげている。そして「五感から得られるもの」という言葉は技師生活だけでなく、今後、コンピューターと共存していく私たちが「人間らしく生きていくため」に必要なキーワードなのだと改めて感じながら、今月の「シリーズ・連載 五感」を書き終えることにする。

(文責：高木剛司)

## 2月・3月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■ 業務拡大に伴う統一講習会：	北海道	2月17日(土)～18日(日)	群馬	2月17日(土)～18日(日)
	千葉	2月17日(土)～18日(日)	富山	2月17日(土)～18日(日)
	和歌山	2月17日(土)～18日(日)	岡山①	2月17日(土)～18日(日)
	広島	2月17日(土)～18日(日)	徳島	2月17日(土)～18日(日)
	福岡	2月17日(土)～18日(日)	鹿児島	2月17日(土)～18日(日)
	山形	2月24日(土)～25日(日)	神奈川	2月24日(土)～25日(日)
	岐阜	2月24日(土)～25日(日)	三重	2月24日(土)～25日(日)
	大分	2月24日(土)～25日(日)	佐賀	2月24日(土)～25日(日)
	東京	3月 3日(土)～ 4日(日)	岡山②	3月 3日(土)～ 4日(日)
■ 基礎技術講習(一般撮影)：	北海道	2月25日(日)		
■ 放射線取扱主任者定期講習：	東京	2月16日(金)		
■ 被ばく線量適正化講習会：	大分	2月17日(土)		
■ 放射線機器管理地域研修会：	秋田	2月18日(日)	愛知	3月 4日(日)
■ 「看護学」(実習)講習会：	埼玉	2月18日(日)		
■ 「救急医療学」講習会：	愛知	2月24日(土)		
■ ナイトセミナー：	東京	2月26日(月)		

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日(7月13日)および年末年始(12月29日～1月3日)は執務致しません。